

TOPICS

ベンティガ発売から1年

世界で受けた12の栄誉



CONTENTS

1 TOPICS —
世界で受けた 12 の栄誉

2 COMPETITORS —
メルセデス・マイバッハ S
600 プルマン



3 BESPOKE —
Mulliner の世界

4 HERITAGE —
R-Type コンチネンタル



5 LATEST NEWS —
ロイヤルワントを付与された
ブランド 他

6 BASIC KNOWLEDGE —
CAN [Controller Area Network]

2015年11月、ベンティガの記念すべき1号車が生産ラインを出てから1年が過ぎました。この間、ベンティガは世界中で12の賞を受賞。比類なきラグジュアリーさ、先進的なテクノロジー、彫刻的なデザインが極めて高く評価された結果です。

2016年は最高の年

ご存じのとおり、ベンティガは世界最速、そして世界で最もラグジュアリーなSUVとして開発されました。ラグジュアリーでエレガントなデザインに加え、高いオフロード走行性能を有し、最先端のテクノロジーが注ぎ込まれた車です。お客様からのご要望も非常に多く、増産体制を決定。ベントレーモーターズのウォルフガング・デュルハイマー会長兼CEOは、「私たちはベンティガとともにモダンなラグジュアリーというものをベンチマークしました。お客様からの反応も素晴らしいものでした。生産体制を強化し、2016年には5500台以上のベン

ティガを生産することで、お客様にお待ちいただく時間を短縮しました。ベンティガは全56市場に送られ、リテーラーの皆さんもお客様のご要望にお応えできているかと思っています。全体的に見ても、初年度としては素晴らしいパフォーマンスだったことは間違いありません」などとコメントしています。

SUVオブ・ザ・イヤーを受賞

英国では、『Autocar magazine』の「Game Changer」賞を受賞。SUVとして極めてユニークであると評価されました。『Robb Report UK』は、「SUVオブ・ザ・イヤー」にベンティガを選出。審

査員からは「まさに画期的な車」と絶賛されました。ベントレーにとって最大の市場である米国でも、ベンティガは好意的に受け入れられました。『Robb Report US』では「Best of the best」の賞を受け、男性誌『Gear Patrol Times』が「2016 GP 100 Winner」にベンティガを加えました。成長著しい市場の中国では、『Global Times』が「Annual Best Brand Product in March」にベントレー初のSUVを選びました。このほか、シンガポールや中東などでもベンティガは高く評価されています。



ベンティガは英国の『Robb Report UK』での「SUVオブ・ザ・イヤー」をはじめ数々の賞を受賞した。

■ ベンティガが1年間で受けた賞の数々

国・地域	主催団体・媒体	賞	受賞年月
英国	Autocar	Gamechanger	2016年5月
	Robb Report UK	SUV of the Year	2016年6月
米国	Robb Report US	Best of the Best	2016年6月
	Esquire	Esquire Car of the Year	2016年10月
	Gear Patrol	2016 GP 100 Winner	2016年11月
中国	Car and Driver	Jury's Special Award	2016年1月
	Tencent.com	TTA Import All-terrain SUV	2016年1月
	Global Times	Annual Best Brand Product Award	2016年3月
	Hurun Report	Luxury SUV Best New Arrival	2016年1月
	China Chief Editors' Club and PRIME Research	Best SUV of the Year	2016年11月
シンガポール	Prestige Singapore	Best Sports Utility Vehicle	2016年8月
中東	PR Arabia	Best Luxury SUV	2016年5月



COMPETITORS INFORMATION [競合車情報]

メルセデス・マイバッハ ブランドの頂点 —メルセデス・マイバッハ S 600 プルマンの特長—

メルセデス・ベンツ日本は、2016年9月15日にメルセデス・マイバッハ S 600 プルマンを発表し、一部の正規販売店にて同日より注文受付を開始しました。2015年3月のジュネーブ・モーターショーで発表されたこのモデルは、メルセデス・マイバッハ ブランドの頂点に位置する最高級リムジンです。

マイバッハの伝統を受け継ぐショーファーモデル

1920年代に登場した超高級車ブランドの「マイバッハ」は、2002年から2013年にかけて、「マイバッハ 57」「マイバッハ 62」などがダイムラーの最高級ラグジュアリーモデルとして生産されました。その後「マイバッハ」ブランドは姿を消しましたが、メルセデス・ベンツブランドの傘下で「メルセデス・マイバッハ」として復活。Sクラスのロングモデルからホイールベースをさらに20cm延長し、後席の居住性を向上させたモデルとして発売されているのは周知の通りです。

6.5mの全長を持つメルセデス・マイバッハ S 600 プルマンは、かつての「マイバッハ62」の後継にあたる新世代のショーファーモデルとなります。



後席乗員の快適性にフォーカスしたマイバッハ 62

歴代のロシア大統領も愛用する「プルマン」の伝統とは

メルセデス・ベンツ自製のリムジンモデルとして戦前から用いられる「プルマン」の名称。そのルーツは、19世紀にアメリカのプルマン社が製造した豪華な寝台型鉄道車両に由来します。1930～1940年代にかけてメルセデス・ベンツの大型モデルに用いられたほか、1963年～1981年にかけて生産されたメルセデス・ベンツ 600 (W100) にも使われました。全長5,450mmの標準モデルに対してホイールベースを700mm延長し、全長6,240mmとしたメルセデス・ベンツ 600 プルマンは、世界的な有名人や国家元首などに愛されました。



1963年～1981年にかけて生産されたメルセデス・ベンツ 600 プルマン

1981年にW100が生産終了となり「プルマン」の名も消えましたが、1995年に当時のSクラス (W140) をベースにしたリムジンの製作を期に復活。その防弾仕様車である“Guard”モデルは、ロシアのエリツィン大統領専用車として採用されました。その後も「プルマン」の防弾仕様車は歴代のロシア大統領専用車となり、2016年12月に開催された日露首脳会談では、プーチン大統領の専用車として、先代Sクラスをベースにしたメルセデス・ベンツ S 600 Pullman Guardが日本に持ち込まれました。



先代のメルセデス・ベンツ S 600 Pullman Guardはプーチン大統領専用車としても使用される



FEATURE 1

「マイバッハ」「プルマン」のダブルネームを持つ最高級リムジン

FEATURE 2

6.5mの全長により究極の快適性をもたらす室内空間

FEATURE 3

顧客の要望により製作を行う完全受注生産モデル

マイバッハ 62を超える6.5mの全長

メルセデス・マイバッハ S 600 プルマンでは、メルセデス・マイバッハ Sクラスからホイールベースをさらに1m以上延長し、ホイールベースは4,418mm、全長は実に6,500mmに達します。これはショーファーモデルとしてつくられた旧マイバッハ 62のホイールベース3,827mm、全長6,165mmを大幅に上回り、リアに備わるエグゼクティブシートのレッグルームはセグメント最大の広さです。併せてルーファインの形状も変更され、ヘッドルームが拡大しています。

究極のプライバシーが確保されるリアコンパートメント

リアコンパートメントには、オーナーのために用意された前向きのエグゼクティブシートが備わります。スイッチ操作ひとつで、仕事に適したアップライトポジションから最大43.5度までのリクライニングポジションまで選択可能。また、乗車定員4名だったマイバッハ 62とは違い、対面式シートが備わるメルセデス・マイバッハ S 600 プルマンの乗車定員は6名です。プルマン伝統の対面式シートは、従来の固定式に代わり新たに電動収納式を採用。レッグレスト付のシートをいっぱいリクライニングさせれば、極上のくつろぎを得ることができます。



対面式シートの収納時に使用できる左右のディスプレイに加え、パーティションウォール中央には収納可能な18.5インチの大画面ディスプレイが備わる

前席と後席の間にはパーティションがあり、ガラスの上下に加えてガラスの透明度を調整することができます。また、リアコンパートメント全体を電動カーテンで閉じることにより、究極のプライバシーを確保することも可能です。この場合、エグゼクティブシートから遠く離れた前席との会話はスピーカーを通じて行います。



エグゼクティブシートからの眺め。ルーフの3連メーターは、左から速度計、時計、気温計となる

快適性を極めた「プルマン」専用装備

旧マイバッハ 62と同様に、開いたリアドアは車内のスイッチ操作で閉じることができます。またセンターコンソールにはシャンパンボトルを冷蔵できる収納庫が設けられ、専用シャンパンフルートでシャンパンを楽しむことも可能です。



センターコンソールにはシャンパンを楽しめる収納庫を装備

気になる価格・納期は？

このようにさまざまな専用装備が設定されたメルセデス・マイバッハ S 600 プルマンの価格は88,000,000円。完全受注生産となるため、受注から納車までは最短で約12ヶ月といわれています。もちろん、外装色のスペシャルペイントや特別内装などを選択した場合は、さらに納期がかかるのはいうまでもありません。「マイバッハ」と「プルマン」のダブルネームを掲げる最高級リムジンは、現在、旧マイバッハ 62/62Sやメルセデス・マイバッハ S 600に乗るユーザー、あるいはモデル末期となったロールス・ロイス ファントム EWBのユーザーにとって、非常に気になるモデルであることでしょう。

NEW MODEL INFORMATION [新型車情報]

ニューモデル



メルセデス AMG E 43 4MATIC

発表・発売日	10月6日 発表・発売
概要	<ul style="list-style-type: none">・ 新型Eクラス初のメルセデス AMGとして、スポーティな専用エクステリアおよびインテリアを装備・ 401 ps、520 Nmの3.0L V6ツインターボエンジンを搭載・ 31.69の前後トルク配分を備えるパフォーマンス志向の四輪駆動システム
車両価格 (税込)	メルセデス AMG E 43 4MATIC : 11,490,000円
デリバリー開始時期	2016年10月下旬以降

装備拡充



アウディ A6

発表・発売日	10月20日 発表・発売
概要	<ul style="list-style-type: none">・ 従来はオプション設定のS lineエクステリアを標準仕様に・ S lineパッケージ装着車にアウディ S6と同デザインのシングルフレームグリルを採用
車両価格 (税込)	A6 1.8 TFSI : 6,280,000円 A6 2.0 TFSI quattro : 6,800,000円 A6 3.0 TFSI quattro : 8,880,000円 A6 Avant 1.8 TFSI : 6,660,000円 A6 Avant 2.0 TFSI quattro : 7,180,000円 A6 Avant 3.0 TFSI quattro : 9,260,000円
デリバリー開始時期	—

特別仕様車



メルセデス AMG GT S Carbon Performance Limited

発表・発売日	10月25日 発表・発売
概要	<ul style="list-style-type: none">・ 専用カーボンパーツを使用し、上質でスポーティな印象を高めたエクステリアおよびインテリア・ 専用のポリッシュ加工を施した、鍛造製の19/20インチAMGクロスポークアルミホイールを装着・ AMG カーボンセラミックブレーキを標準装備
車両価格 (税込)	メルセデス AMG GT S Carbon Performance Limited : 22,800,000円 (限定20台)
デリバリー開始時期	—

特別仕様車



BMW 640i Gran Coupe Celebration Edition “Exclusive Sport”

発表・発売日	11月8日 発表・11月19日 発売
概要	<ul style="list-style-type: none">・ BMW創立100周年を記念した特別限定車の第12弾・ M Sportモデルをベースに、20インチホイールや専用アルミウィンドウモールを装備・ BMW Individualトリムなどで高級感を増したインテリア
車両価格 (税込)	BMW 640i Gran Coupe Celebration Edition “Exclusive Sport” : 13,400,000円 (限定33台)
デリバリー開始時期	9月

ニューモデル



ブガッティ シロン

発表・発売日	11月10日 発表
概要	<ul style="list-style-type: none">・ ヴェイロンの後継として500台を限定生産・ 8.0L W16クワッドターボエンジンは最高出力1500ps、最大トルク1600Nmを発揮・ ヴェイロン時代のニコルに代わり Bugatti Japan が正規総代理店に
車両価格 (税込)	ブガッティ シロン : 240万ユーロ (約2億9500万円)
デリバリー開始時期	—

特別仕様車



BMW M4 DTM Champion Edition

発表・発売日	11月14日 受注受付開始
概要	<ul style="list-style-type: none">・ DTM (ドイツ・ツーリングカー選手権) タイトル獲得記念限定車。世界限定200台のうち、日本では25台を販売・ 500 psを発揮する3.0L 直6ツインターボエンジンを搭載・ 内外装にCFRP製の専用部品を多数装備
車両価格 (税込)	BMW M4 DTM Champion Edition : 20,510,000円
デリバリー開始時期	2017年4月

BESPOKE [ビスポーク]

ビスポークで「オンリーワン」のベントレーを Mulliner の世界

お客様がベントレーを選ばれる際、ボディカラーやハイドカラー、ステッチカラー、ウッドパネルの種類など、さまざまなカスタマイズが可能です。それだけでも十分「自分だけの1台」になりますが、お客様のご要望によっては、Mullinerのビスポークで真の「世界でたった1台の特別なベントレー」を作ることができます。



Mullinerではどんなことができる？

最も手軽にMullinerの要素を取り入れるなら、パッケージオプションの「Mullinerドライビングスペック」があります。「Speed」モデルではこのスペックが標準装備されていますが、それ以外のモデルをお選びいただいたお客様にはお勧めのオプションです。

次がステッププレートにお客様の名前を入れたり、シートにロゴなどを刺繍したりするビスポークがあります。これはビスポークの中でも比較



ベントイガの車名の由来となったRoque Bentaygaの山々を種類の異なる木材を組み合わせて描いたフェイスアパネル。

的手軽にできるもののため、1台あたりの単価を上げるのにも役立ちます。さらに上級レベルのビスポークでは、インテリアのハイドカラーをお気に入りのソファのレザーと同じ色にする、といった大がかりなものもあります。また、ウッドパネルに別の素材を使用してイラストを盛り込む、といったことも可能です。

ボディカラーについてもカスタマイズが可能です。過去の例では、思い入れのあるギターの色を再現する、妻に初めて贈った口紅の色にする、といったものもありました。



Mulliner ドライビングスペックを選ぶとローレット加工のシフトレバーなどが追加されます。

特別仕様車からコーチビルディングまで

もともと馬車の製造からスタートしたMullinerは、コーチビルダーとしても優れた技術力を誇ります。その高い技術を買われ、エリザベス女王が使用するステートリムジンを手掛けたのはベントレーのMullinerなのです。そして、仕向地別や台数限定で製造される特別仕様車もMullinerが手掛けています。最近の例では、日本向けに12台限定でコンチネンタルGT V8 S ムーンクラウドエディションを製作。MoonbeamとOnyxのデュオトーンのボディやジェオメトリックを繊細に描いたフェイスアパネルなど、「色のきらめき」を堪能できる車に仕上がっています。他にもミュルザンヌ マジェスティック (中東限定15台) やコンチネンタルGT Speedブライトリング・ジェットチームシリーズ(世界限定7台) など、数々の特別仕様車を世に送り出してきました。



日本のみ12台限定のコンチネンタルGT V8 S ムーンクラウドエディション。

HERITAGE [伝統]

R-Type コンチネンタルが
現在のベントレーにもたらしたもの

コンチネンタルGTは、現在のベントレーにとって最も象徴的な車のひとつです。「コンチネンタル」という名前が最初に使われたのは1952年。それがR-Typeコンチネンタルです。R-Typeコンチネンタルの製造を担当したのは、現在ベントレーのビスポーク部門を担うMullinerで、今でもMullinerの代表作と言われる名車として長年語り継がれてきました。

R-Typeコンチネンタルは、世界初のグランドツアラーとして登場し、市場に鮮烈な印象を与えました。最高速度は約190km/h。4シーターの車としては登場時の世界最速でした。R-Typeコンチネンタルの登場から5年後、1957年にはMullinerはこの車のシャシーをベースに、4ドアモデルのS1コンチネンタル・フライングスパーを製造。この両モデルが、現在のコンチネンタルGTとフライングスパーのルーツとなっています。(フライングスパーは11MYまで「コンチネンタル・フライングスパー」の名称だったことは記憶に新しいところです)

現行モデルにも受け継がれたスタイリング

コンチネンタルは、デザイナーがペンを3回ストロークしただけで命を吹き込まれた、と言われています。ボンネットのパワーライン、筋肉質なリアフェンダー、なだらかな曲線を描くルーフライン、これらのエレガントなる要素は、コンチネンタルの基礎を成すDNAとして60年以上が経過した今も残されています。ベントレーモーターズのデザインディレクターであるステファン・シーラフ氏も、R-Typeコンチネンタルについて「ベントレーを最も象徴しているモデル」と見ており、将来においてもこの車の要素がデザインに活かしていく考えを明らかにしています。(Dealer Academy News 2016年11月号P1参照)

現行モデルのコンチネンタルGTとR-Typeコンチネンタルを比較してみましょう。

BONNET

ボンネットのパワーライン

R-Type Continental



Continental GT



REARFENDER

筋肉質なリアフェンダー



ROOFLINE

なだらかな曲線を描くルーフライン



現行ミュルザンヌにも1952年のモチーフが

R-TypeコンチネンタルのDNAを受け継いだのは、コンチネンタルGTだけではなく。現行ミュルザンヌにも随所に1952年のモチーフが散りばめられています。

FRONTGRILLE

フロントグリルの縦ルーバー

R-Type Continental



Mulsanne



HEADLAMP

ヘッドランプの並び



MASCOT

ボンネットマスコット



LATEST NEWS [最新情報]

CULTURE

ロイヤルワラントを付与されたブランド

しばしば「英国王室御用達」と訳されるロイヤルワラント。ベントレーはエリザベス女王陛下とチャールズ皇太子殿下からロイヤルワラントを受けている自動車メーカーです。ロイヤルワラントは日本の「宮内庁御用達」と比較されることがありますが、宮内庁御用達は宮内庁に品物を納入した実績があれば名乗れるもの。大日本帝国憲法下における「宮内省御用達」が審査のある厳しい制度だったことから混同されているようですが、似て非なる制度です。ロイヤルワラントもかつての「宮内省御用達」のように、授与された後に定期的に厳しい審査が行われ、基準に満たないと判断された場合は取り消されることもある厳しい制度です。いずれにしても、授与されるとその品質を維持していく責任が生じます。

2014年3月15日号では「ロイヤルワラントとは何か」を解説し、2015年5月15日号では、ロイヤルワラントを授与されているブランドを紹介しました。今回はその第2弾として、ロイヤルワラントを受けている異業種のブランドを紹介します。

ビスポークシャツ ターンブル&アッサー

1885年創業のビスポークシャツのブランド「ターンブル&アッサー」。採寸から仕様決め、裁断、縫製、フィッティングまでの職人技と最高のサービスが認められ、1980年にチャールズ皇太子殿下からロイヤルワラントを授与されました。チャールズ皇太子殿下がロイヤルワラントを与えた最初のブランドで、2013年にはターンブル&アッサーの工房を訪れてご自身がミシンをお使いになり縫製に挑戦されました。日本ではヴァルカナイズ・ロンドン青山店などで購入可能です。



文具 スマイソン

「スマイソン」は1887年に創業者フランク・スマイソンにより誕生した文具の老舗ブランドです。デザインと実用性を兼ね備えた文具を作り続け、なおかつビスポークステーションリーの道を切り開いてきました。エリザベス女王陛下から1964年に、チャールズ皇太子殿下から1980年に、エディンバラ公爵殿下から2002年にロイヤルワラントを付与されています。日本ではバーニーズニューヨーク銀座本店などで購入可能です。



フレグランス ペンハリガン

1860年代にウィリアム・ペンハリガンがロンドンに開業した理髪店がルーツのフレグランスブランド「ペンハリガン」。日本でもよく知られているブランドです。「革新的で、エレガンスかつモダン。未だどこにもない香りを求めて」という冒険心を引き継いできました。ロイヤルワラントは1903年にアレクサンドラ女王から授与（現在は失効）されたのを皮切りに、1956年にはエディンバラ公爵殿下から、1988年にチャールズ皇太子殿下から与えられています。日本では伊勢丹をはじめ全国の有名百貨店などで購入可能です。



アパレル キンロックアンダーソン

タータンチェックやキルトの本流といわれるトップメーカーの「キンロックアンダーソン」。英国王室で使用されるチェックはすべて同社のもので、ハロッズやアクアスキュータム、バブアー、三越のタータンチェックをデザインしたことで知られています。エリザベス女王陛下、チャールズ皇太子殿下、エディンバラ公爵殿下からロイヤルワラントを授与されています。日本では東武百貨店池袋本店をはじめ全国有名百貨店で購入可能です。



COLLECTION

ベントレーコレクションの新作が登場



ベントレー モーターズはこのほど、ベントレーコレクションの2017年版を発表しました。今回もまた、男性と女性、そしてお子様向けにクラシックなデザインとエレガントなスタイルのラグジュアリーアパレルやアクセサリを揃えました。

例えば、トラディショナルなレザー製ボストンバッグや美しいカシミアブランケット、ハンドメイドで製作された子供用ライドオンカーなど、目の肥えたブランドのファンにもクラシックなデザインと極上の素材をお気に入りいただけるはず。2017年のベントレーコレクションは、100以上のアイテムを「ホーム」「フレグランス」「ビジネス」「ヘリテージ」「ビスポーク」「カラー」「アイコンニック クラシック」「Bentley」の8カテゴリーに分類して構成。ギフトにもぴったりな商品ラインナップとしました。

日本での導入時期や価格など詳細は未定ですが、リテラー マーケティングニュースの「Download」から、17MYのカタログをダウンロードすることができます。なお、日本での価格表も現在作成中です。



<http://retailer.bentley.co.uk/content/dmn/en/downloads/guidelines.html>

TOPICS

ベンティガ ディーゼルのデュオトーン試作車を公開

ベントレー モーターズはこのほど、ベンティガのデュオトーンの試作車を製作し、メディア向けに公開しました。この車両はベントレーのデュオトーンペイントのスキームを用いて製作されたもので、ベンティガをメディアに露出させ続けることを目的に設計されました。

現時点ではベントレー本社がベンティガにもデュオトーンペイントを導入するかどうか、積極的に調査を行っている最中で、最終的な結論はまだ出ていません。今後、ベンティガのデュオトーンについて動きがあれば、リテラー マーケティング ニュースで随時更新される予定ですが、このリテラーアカデミーニュースでもお伝えいたします。



BASIC KNOWLEDGE [基礎知識]

CAN
Controller Area Network

クルマの電装系について少し掘り下げた話になると、必ずと言っていいほど「CAN」、あるいは「CAN BUS」という言葉が出てきます。
この「CAN」とは何か？ 基本的にはサービス部門の領域になりますが、「CAN」は現代の自動車電装の根幹を成すシステムです。
その基本的なシステムとメリットをぜひ理解しておきましょう。

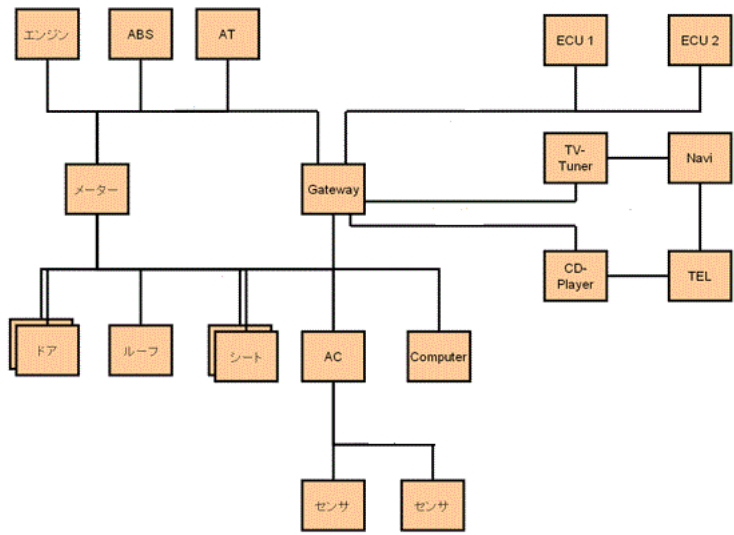
「CAN」って何ですか？

CANはController Area Networkの略で、日本では「キャン」と呼ばれています。

フューエルインジェクションや点火タイミング、リモコンドアロックなどから始まったクルマの電子制御デバイスは、近年では走行性能から快適性、安全性、そして自動運転に関わるものまで広範囲に及んでおり、それを制御するECUの数も急激に増えています。

そんな中で、あるデバイスで利用しているデータを他のデバイスの制御にも使用したい、あるいは他のデバイスと連動して制御した方が効率が良い、というケースが出てきました。そこで、さまざまなデバイスのECUをネットワークでつなぎ、お互いにデータをやり取りできるようにするシステムが生まれました。これが「CAN」です。ちなみに「BUS」は、は各ECUやセンサーをつなぐ通信配線を指す言葉です。

会社内の複数のパソコンをネットワーク化し、サーバーにアップロードしたデータを社員全員で共有する、あるいは特定のパソコンに接続されたドライブを共有する、いわゆる社内LANを思い浮かべていただければ解りやすいかもしれません。

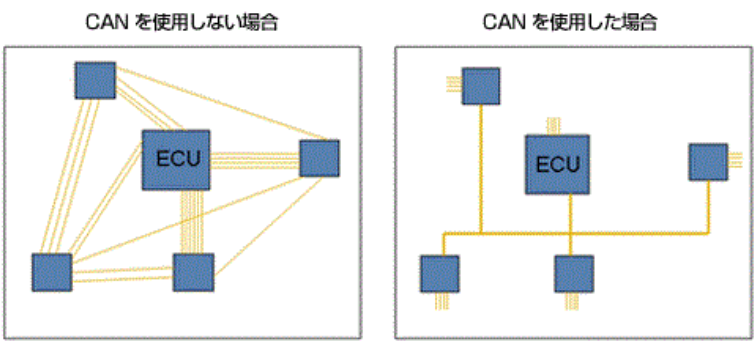


CANの概念図。複数のECUや電子機器、センサーをネットワーク化することで、互いの情報をやり取りできるようになっています。

なぜ「CAN」が必要なのですか？

例えば、フューエルインジェクションが正確な燃料を計算して噴射するには、エンジン回転数や速度、アクセル開度、吸入する空気の量や温度といった様々な情報が必要になり、各センサーから配線を引いてインジェクションのECUに取り込まなければなりません。

エンジン回転数や速度、アクセル開度のデータは、点火時期やトランスミッションのシフトタイミングの制御などにも使われます。また緻密な制御には、インジェクションとトランスミッションのECU間で情報のやり取りも必要になります。それをすべて個別の配線で行ったらどうなるでしょう？ 機能を増すごとにECUのコネクターは大きくなり、配線の量も膨大になって、重くなる、配線やECUの収納スペースの関係でこれ以上機能を増やせない、配線に起因するトラブルが増える、といった問題が生じます。これが、CANが必要になった最大の要因です。



CANを採用することにより、例えばエンジンECUがアクセル開度のデータを取り込めば、CANを通じてすべてのECUがそのデータを利用できるようになります。

「CAN」のメリットは？

CANの採用によって配線量が減り、各ECU間の連携もしやすくなると、以下のメリットが生まれます。

- ・軽量化できる
- ・コストが下がる
- ・配線に起因するトラブルが減る
- ・スペースに余裕ができて設計の自由度が増す
- ・より高度な制御が可能になる
- ・設計変更や機能の拡張が容易になる

またCANを通じてすべてのECUのエラーチェックが可能となるため、故障診断および修理のスピードと正確性も大幅に向上します。

このように、CANは現代のクルマにとって欠かすことのできない電装システムとなっており、今後さらなる進化を続けていくのは間違いなさそうです。



近年、エンジンやトランスミッション、サスペンション、ブレーキなどを総合的に制御し、急速な進化を遂げているドライバーアシスト機能やセーフティ機能も、CANあつてのシステムです。